

かたりべ 73

豊島区立郷土資料館だより



「『中世豊島氏編年史料Ⅲ』を読む」のようす



都電と力くらべ（「都電荒川線車庫見学会にて」）

講座・見学会のゆくえ

郷土資料館では、区民向けの催し物として、歴史講座・地域史講座および見学会を開催しています。今年度実施した歴史講座は、日本中世史研究者を迎えた講演会「『中世豊島氏編年史料Ⅲ』を読む」（全五回）、地域史講座は、我々学芸員が交替で講師を勤めた講演会とフィールドワークで構成した「わかる豊島区」（全一〇回）、そして、見学会は、見学地の職員に講師をお願いした「都電荒川車庫見学会」と「都営地下鉄志村車庫見学会」（各一回）でした。いずれの講座・見学会も定員をほぼ満たし、定員超過の場合には、止むなく抽選によって参加者を絞り込んだこともありました。

こうした講座・見学会に参加する方々のニーズは様々です。学んだ内容を踏まえて自らの研究を深め文章化していこうとする人、自分が関心のあるテーマについて見たり聞いたりできればそれで満足という人、あるいは、学校の宿題提出のために保護者に連れられてイヤイヤ参加している児童（見学会の場合）。こうした参加者の幅広い欲求に応えるべく、テーマ・開催時期・曜日・時間帯などを決めています。

さて、近年、美術館や自然系博物館を中心に「ワークショップ」という用語が盛んに使われ、実際に行われています。これは、指導する人・される人の区別なく、参加者全員が対等の立場で協力しながら、あるものを創り出したり、ひとつのテーマに向かって活動していくもので、いわば体験・参加型の催しと言い換えられるでしょう。

しかしながら、扱うテーマによっては、「ワークショップ」の考え方が馴染まず、単なる参加者による「お遊び会」になってしまう場合も予想されるため、実施にあたっては慎重に見極めていく必要があります。当館では、今までに「ワークショップ」を前面に押し出した事業を企画したことはありませんが、今後講座・見学会参加者の感想

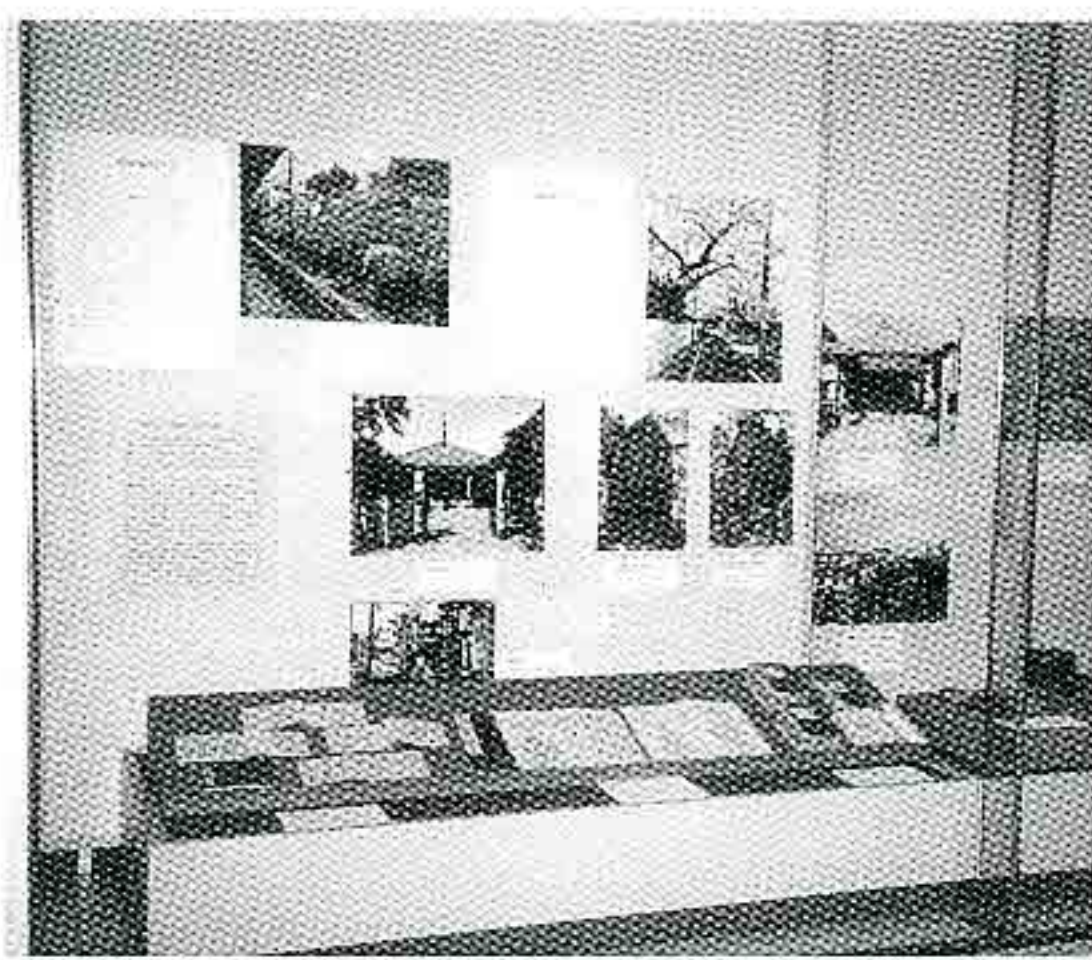
意見なども勘案しながら、試みていきたいと考えています。（秋山）

見どころはここだ！ーいま見学できる展示資料

現在、当館では、三月三十一日（水）までの会期で第二回収蔵資料展を開催しています。今回は展示全体を貫く統一テーマは特に設けず、四つのコーナーで構成しています。以下、各コーナーごとにその概要と見どころ資料について紹介していきます。会期中に是非ご来館下さい。

◆植木屋伊藤伊兵衛の業績をさぐる

江戸時代前期から豊島郡上駒込村染井（現豊島区駒込）に居住し、植物栽培に携わってきた伊藤伊兵衛家は、江戸で一



番の植木屋と言われ、「その筋」ではちよつとした有名人でした。中でも、元禄

・享保期（一六八八〜一七三五）に活躍

した伊兵衛三之丞と政武父子は、その後

の江戸園芸に大きな影響を与えた人物と

して知られています。三之丞の執筆した

『錦繡枕』、政武の執筆した『草花絵前

集』『増補地錦抄』『広益地錦抄』『地

錦抄附録』といった園芸関係資料から、

「植木の里」と言われた上駒込村染井の

園芸文化を実感してください。また、あ

わせて、常設展示室の「駒込・巣鴨の園

芸」コーナーも見学下さい。

◆カストリ雑誌とヤミ市

一九四五（昭和二〇）年八月の敗戦後、

日本では衣食住に関わる様々な物資が不

足していました。食糧や衣料品の配給制

度は戦後も継続されていましたが、ひと

り当たりの配給量の少なさや配給の遅れ

（遅配）から、ことに都市部に暮らす人

々にとっては苦しい生活が続きました。

その一方で、戦前・戦中の厳しい思想統

制や経済統制から「解放」されたことも

らの解放を「カストリ雑誌」に、また経

済統制からの解放を「ヤミ市」に象徴さ

せ、関連資料を展示しています。常設展

示室の「池袋ヤミ市」のコーナーととも

にご覧いただくと、より理解しやすいか

と思います。

◆敗戦直後の教科書から

敗戦後、学校では、「墨塗り教科書」

の時期を経て、平和主義・基本的人権の

尊重という新憲法・教育基本法の理念に

基づいた新しい教科書が作成されます。

音楽では、「軍かん」「おもちゃの戦車」

「兵たいさん」などが削除されました。

算数では、日々の生活の中から考えを引

き出すよう工夫されています。理科の教

科書では、「空気はどんなはたらきをす

るか」「空の星と私たち」、新科目の社

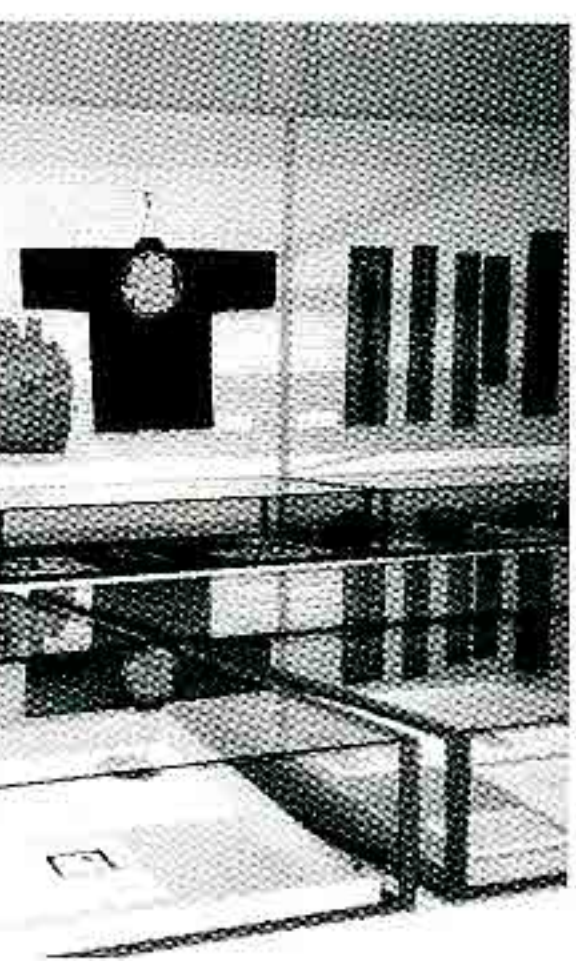
会科では、「天然資源」「交通通信機関

の発達」といったテーマごとに独立した

教科書になっています。また、中学一年

生用の社会科教科書「家庭と社会生活」

では、戦時中までの戸主制度の廃止の影



響について、「家族はバラバラになるの

だろうか？」と問いかけています。こう

した特徴ある教科書を通して、敗戦直後

の教育について考えていきます。

◆布巾——お得意さまへのご挨拶——

布巾には、食器の水気を拭き取ったり、

出汁や味噌を漉したりする用途があり、

それは昔も今も変わっていません。居住

地近隣の多くの商店が、商店名や連絡先

などを「ふきん」という文字や独自の意

匠とともに染め抜き、お得意さんへの御

年賀として渡っていた時代がありました。

現豊島区要町三丁目に住んでいたある

お宅に残された複数の布巾や手拭いから、

昭和三〇〜四〇年当時の「日常の買い物

事情」について考えていきます。展示を

通して、ひと昔前の庶民生活の一端に思

いを巡らしていただければ幸いです。ま

た、布巾の新たな（資料としての）「用

途」にもご注目ください。

（秋山）

Q 豊島区が空襲を受けたのは一九四五（昭和二〇）年四月一三日だと聞きました。でも、東京空襲の記念式典は毎年三月一〇日に行なわれているようです。どうしてですか？

（はるか）

A アジア太平洋戦争（第二次世界大戦）中に、日本全土はアメリカ

による都市空襲を継続的に受けました。そのうち、日米開戦後まもなくの一九四二年四月一八日の空襲（指揮官にちなんでドゥーリトル空襲といわれる）を除くと、一九四四年一月から四五年八月にかけて長期間にわたり、かつ反復したものでした。東京も何回にもわたって空襲されました。

そのうち、人的被害が最大であったものが、現在の墨田区・江東区などの東京下町地区を中心とした一九四五年三月一〇日未明の空襲です。この空襲を「東京大空襲」と呼ぶことが多いのですが、一夜（実際の爆撃は約二時間）にして、約一〇万人（厳密な数は不明）が死亡し、約二十七万戸が被害を受けました。一回の空襲での死者としては空

前のものでした。まさに大空襲といえるものです。東京空襲の代表的な例として、東京都などが、この三月一〇日を記念の日とするのは当然といえるでしょう。なお、この日の空襲のアメリカ軍の目標には、豊島区は含まれていませんでしたが駒込・巣鴨・東池袋・雑司が谷などが爆撃され、合計で二五人の死者があつたと記録されています。

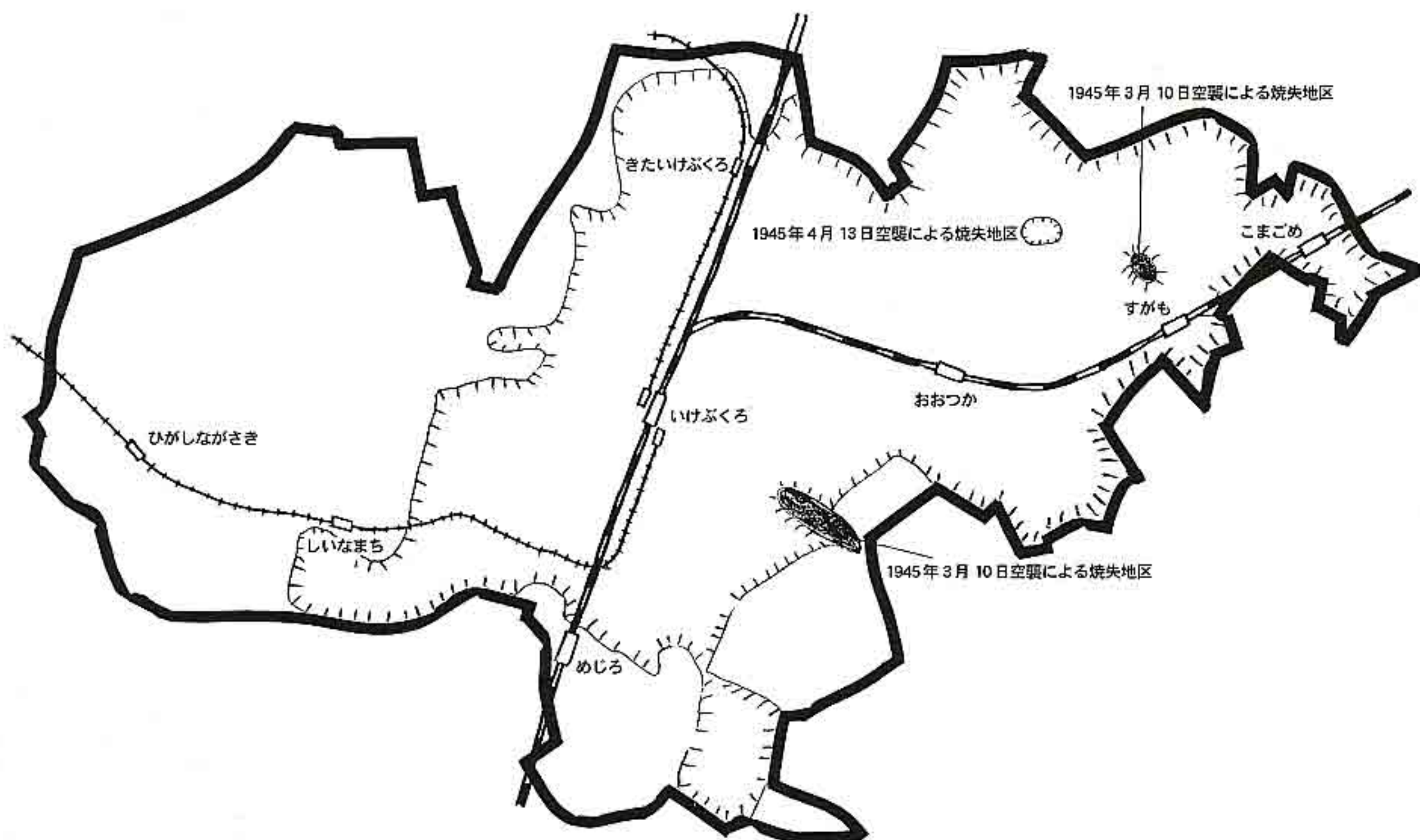
一方、東京の受けた空襲は三月一〇日だけではありません。豊島区内で最も被害の大きかったものが、質問にある四月一三日深夜から一四日未明にかけての空襲です。この空襲では、長崎方面（長崎・南長崎・千川・要町・千早・高松）な

ど一部を除いて豊島区全域が標的になり、区内での死者が七七八名、罹災家屋が約三万四千戸と記録されています（下図参照）。豊島区以外では現在の板橋区・北区などが空襲を受け、東京全体では死者二四〇〇人、罹災家屋一七万戸と記録されています。四月一二日空襲については、三月一〇日空襲のような定まった日本側の呼称はありませんが、「東京西北部空襲」などと言われることがあります。これについては本誌六九号・七〇号にも

記事がありますので参照して下さい。また、区内南池袋公園で、毎年四月一三日に追悼式典が催されています。

豊島区が受けた大きな空襲は、他に五月二五日の池袋・雑司が谷・目白などに対するものがあります。

なお、豊島区と空襲に関する当館発行の刊行物として「戦争と豊島区」（一九九五年）や、『豊島の空襲』（二〇〇二年）などがあります。（あおき）

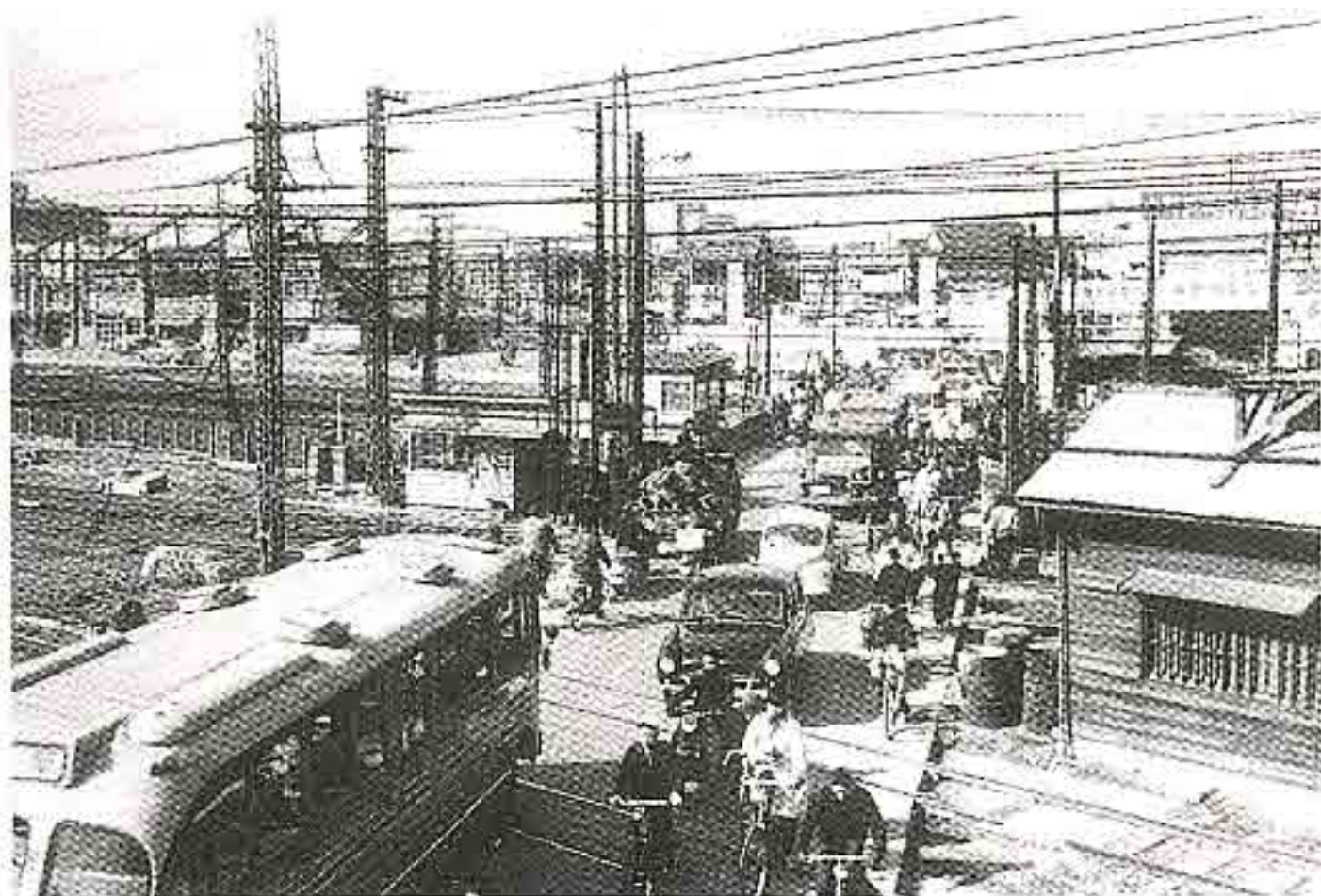


セピア色の記憶

第8回 池袋大踏切から池袋大橋へ

左に示した二枚の写真は、ほぼ同じ地点から撮影した昭和三二年（一九五七）頃と現在（平成一六年三月七日）の、東池袋一丁目四四番付近から西池袋一丁目方面を撮影した風景です。地図に示した*印は撮影地点を、↓は撮影方向を示しています。

上写真の踏切は、池袋大踏切（正式名称は「第二鎌倉踏切」と呼ばれ、東武



東上線、赤羽線（現埼京線）、山手線、貨物線などを横切る全長七〇メートルほどの長い踏切でした。しかも昭和三〇年一月一四日の調査では、午前八時から午後八時までの二時間中、遮断時間は七時間二八分という「開かずの踏切」でもあったのです。一方、池袋の東西を結ぶ「ときわ通り」上の踏切のため、当時の交通量は自動車だけでも六〇〇〇台以

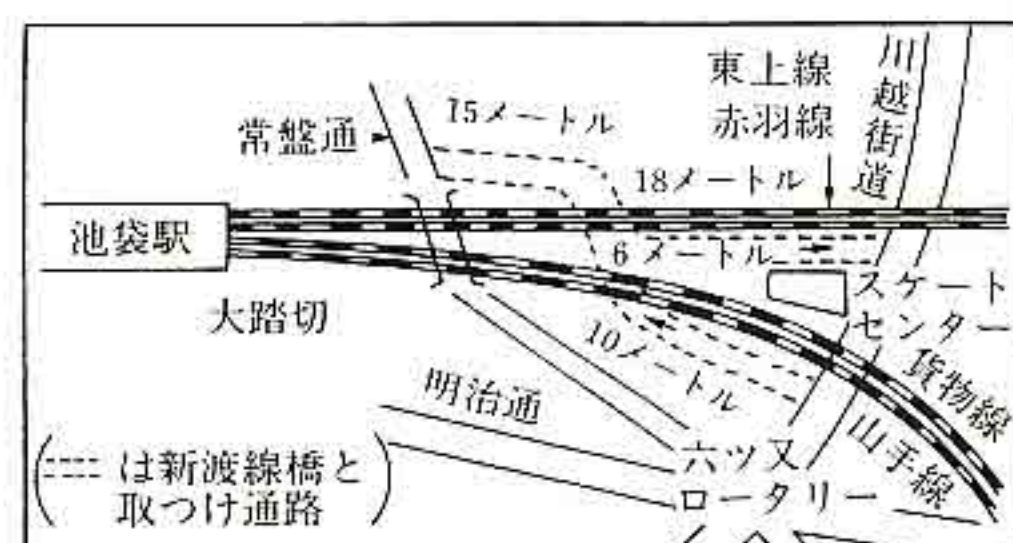


上に達しており、そのため、写真からも窺えるように、自動車が踏切いっぱいになり、自転車や歩行者は線路にはみ出さざるばかりの状態でした。さらには、非常に危険な踏切でもありました。さらに、前号の本コーナーで取り上げた六ツ又交差点の渋滞原因にもなっていたのです。

しかしながら、池袋駅周辺が発展していく上で最大のガンとまでいわれた大踏切問題は、様々な紆余曲折を経ながらも池袋大橋と呼ばれる渡線橋の建設による立体交差化で解消していきます（下図参照）。長さ二七八メートル、幅一四・二五メートル（歩道を含む）、S字型の形



状を持ち、工費約七億円を費やして完成した池袋大橋は、昭和四一年（一九六六）十一月一日に開通し、大踏切はこの日の午後五時をもって閉鎖されました。



池袋大橋の開通は、一時的に大踏切の渋滞を川越街道に移す事態を生じさせましたが、翌四二年秋には、山手線の外側に沿って川越街道と明治通りを結ぶバイパスが完成することで、六ツ又交差点方向に流れ込む車の量が削減され、さらに四四年一〇月の川越街道高架化により、池袋駅付近の交通事情も大きく変化することになりました。

ただし、かつてこの地に大踏切が存在していたことを直接示す痕跡は、池袋駅の東口側にも西口側にも、現在では何ひとつ確認できません。

（秋山）
*本欄は、『豊島区史 通史編三・四』の記述を参考にしました。

郷土資料館からのお知らせ

★調査報告書第16集『豊島の集団学童疎開資料集(8)』発行のお知らせ

今回の資料集は、「日記・書簡編Ⅶ—

仰高国民学校」と「山田温泉火災関係資料—池袋第五国民学校」の二部構成となっています。前者は、長野県上田市に疎開していた女子学童あてに書かれた手紙を掲載しました。後者は、豊島区の集団学童疎開中最大の事故である長野県山田村山田温泉火災（八名の女子学童が犠牲となった）に関する記録・書簡・文書などを収録しています。

◆販売価格 五〇〇円（B五判 二段組み 一三二頁）

＊三月二〇日頃より販売を開始します。

★特別展図録『戦争と豊島区』増刷のお知らせ

一九九五年七月から一〇月にかけて開催した特別展『戦争と豊島区』の展示図録は、長期間にわたり品切れの状態が続き、入手希望の方々にご迷惑をおかけしておりましたが、このたび増刷することになりました。ご来館の折に見本で内容をご確認のうえ、お買い求めください。

◆販売価格 五〇〇円（B五判 一〇四頁）

＊三月二〇日頃より販売開始の予定です。なお、他にも当館が編集した刊行物多数を窓口で販売していますので、ご利用下さい。

区民のための 博物館用語の基礎知識

④レファレンス（サービス）

利用者の問い合わせに対して、資料や参考図書の検索を行ったり、調査・研究についてのアドバイスをを行うこと。当館では、地名（町名）の由来についてや、豊島区地域内の旧町・旧番地が現在のどこの場所にあたるのかについての問い合わせが多い。

▽用例△

学芸員A「今日レファレンスに来た小学生は、質問が的確だったな」
学芸員B「私が受けたのは大学生の課題で、しかも来たのは本人じゃなくて親だったよ！」
職員一同「……ウソ教えちゃえ！」

編集後記

今年もソメイヨシノの開花日が気になる時節になりました。入学式につきものの桜ですが、地球温暖化の影響か、開花日が徐々に早まっている傾向が見られます。いずれ卒業式シーズンに満開を迎えることになるのでしょうか？ ちなみに、昨年の東京地方の開花は三月二七日でした。昨年五月から一〇回シリーズで実施してきた地域史講座「わかる豊島区」は、先日最終回を迎えました。一〇箇月に及ぶ長丁場の講座は初めての試みでしたが、概ね好評だったようです。今後、参加者アンケートを中心に、残された課題について検証していきたいと思います。（あき）

かたりべ
No.73

2004年3月1日

豊島区立郷土資料館
豊島区西池袋2-37-4

電話 03-3980-2351
http://www.museum.toshima.tokyo.jp